

第七次甲府市総合計画説明会 会議録（山城地区）

日 時	令和8年7月2日（木）午後7時00分～午後8時00分
会 場	南公民館 大ホール
参 加 者	171名（市長等及び関係職員含む）
次 第	1 市長説明 2 意見交換 3 地区からの挨拶
意見交換記録	
質問	・山城地区の農業振興について 山城地区は、イチゴやナス、トウモロコシ、ブドウなど、市内で有数の農業振興地域である。若手や新規就農者においては、地区内にある就農支援課の指導のもと、大変助かっている。 地区内の農地の保全に向け、また、就農者においては、稼ぐことのできる農業に向けて、今後の方策について、お示しいただきたい。
樋口市長	山城地区は、ナスやトウモロコシなど、本市を代表する「甲府之証」に認定される、ブランド農産物の生産地として、また優良農地が多くあり、将来にわたり営農が可能なエリアとして、農業施策に取り組んでいるところである。 その取組については、農地の保全と効率的な活用を図るためにも、農業委員会や関係機関と連携する中、新規就農や経営規模の拡大を希望する就農者に対し、農地との円滑なマッチングを推進している。 こうした取組は、地域の強みを活かした農地の集約と農業経営の効率化や生産性の向上を促進させるものであり、今後も山城地区の農地の保全を力強く推進していく。 次に、「稼ぐ農業」の実現に向け、現在、増坪町の農業センターの就農支援課内に、ワンストップ相談窓口を設け、専門家による経営診断を行っており、就農者の経営力の向上に努めている。 また、本市では、「プロファーマー認定制度」を創設しており、現在9名を認定し、このうち2名は山城地区の方である。 このプロファーマーは、高品質な農産物の生産に加え、ブランド力を高めるための販路開拓や、付加価値の高い加工品の開

質問	発など、多角的な経営を実践しており、その先進的な取組は、就農者にとって具体的な目標となるものと考えている。 今後は、プロファーマーが培った経営や栽培技術のノウハウを学ぶ機会の充実を図り、就農者が「稼ぐ農業」を実現できるよう、支援していく。 ・多様な主体の参画を促す具体的な仕組みづくりについて 第七次甲府市総合計画が掲げる都市像「幸せ実感 希望ある未来を創り続けるまち 甲府」の実現に向け、まちづくりの主体である「ひと」を育む視点は大変重要であると共感する。 私どもの自治会においても、住み続けたいと思える自治会活動を目指しているが、ライフスタイルの多様化や、共働き・現役世代の負担感などにより、従来の仕組みのままでは自治会加入率が低下し続けている状況にある。 こうした中、当自治会では令和8年度より、デジタル技術を積極的に活用した情報発信や、役員業務の見直しと負担軽減に加え、企業や学生等の協力を仰ぐ「運営サポーター制度」の導入など、時代に合わせた柔軟な組織体制を検討している。 このような地域独自の活動を一自治会の施策に留めず、甲府市全体で「地域に関わることで体がウェルビーイング」となるような、デジタル地域通貨やボランティアポイント制度の導入など、多様な主体の参画を促す具体的な仕組みづくりについて、市の見解をお伺いする。
市民部長	人口減少や少子高齢化の進行、ライフスタイルや価値観の多様化などを背景に、自治会加入率の低下や担い手不足など、自治会活動において様々な課題が生じており、行政と地域が連携しながらその持続可能性を高めていく必要があるものと認識している。 多様な主体の参画を促す取組については、本市では、自治会活動の担い手として活動する「あつ活サポーター団体登録制度」を創設し、企業や学生ボランティア団体の登録を促進するとともに、自治会への制度の利用を促すことで、多様な主体がそれぞれの持つ強みを活かしながら地域課題の解決に向けて協働できるよう支援している。 また、協働支援センターにおいて、地域の実情やニーズを把

	握する中で、自治会と企業、学校等との橋渡しを行うコーディネート機能を活用するとともに、協働支援センターネットワーク会議を通じて、多様な主体が情報交換や意見交換を行い、新たな協働につながる機会の創出に努めているところである。 ご提案いただいた新たな仕組みづくりとしては、当該自治会で検討されている取組は、自治会運営の効率化や負担軽減、新たな参画を促すことにも繋がる先進的な取組であることから、その取組内容を共有させていただく中で、地域活動の魅力を発信する情報紙「あつ活NEWS！」等を通じて広く周知し、他の地域へ波及するよう努めていく。 あわせて、デジタル地域通貨や各種ポイントなどによるインセンティブ効果については、これまでも実施自治体の調査等を行ってきたが、新規加入の促進など、効果が表れにくい状況もあることから、これからも、地域の課題解決等につながる仕組みなどを十分に考えていく。
質問	・リニア中央新幹線等に伴う交通対策について リニア中央新幹線は、当地区の南部を通り、山梨県駅は隣の大里地区に整備される。また、その北側には、中央自動車道のスマートインターチェンジも整備される。 さらに、リニア山梨県駅及び中央自動車道とスムーズにつながる新山梨環状道路の南部区間からの延伸となる東部区間の整備も、現在鋭意進められている状況にある。 これら交通インフラの整備によって、交通量の増加が想定され、当地区には大きな影響があると考えている。 安全安心なまちづくりの観点から、こうした交通インフラの整備に伴う当地区への影響に対する交通対策について伺う。 また、新山梨環状道路東部区間の今後の供用見通しについても伺う。
まちづくり部長	本市の人口が減少期にある中、山城地区においては増加傾向にあり、それに伴う交通量の増加や、新山梨環状道路の落合西インターチェンジまでの延伸に伴う交通量の増加も見られることに加えて、リニア中央新幹線の開業に伴い、交通量の変化が想定されるところである。 こうした中、新山梨環状道路東部区間については、今後、落

	合東インターチェンジや東油川インターチェンジ等が供用されることで、交通の分散化も想定されることから、こうした落合西インターチェンジから先の整備後の交通状況等を踏まえる中で、安全安心のまちづくりの観点から、必要に応じて交通対策について検討していく。 また、落合西インターチェンジから先の整備については、現在、山梨県が鋭意進めているところであるが、供用時期は、現時点では示されていないことから、県に対して、進捗状況や供用開始の見通しについて、地元の皆様への周知や丁寧な説明を求めている。
質問	・山城小学校の適正規模化について 人口が減少する市内であっても、甲府の南側の山城地区は人が増えている。山城小学校が県内で一番大きい大規模校になっていて、この解消は大きな問題だと思う。小学校を１つ造るとするのは大変で、決断するのは難しいと思うが、子どもたちにとって今の規模だと大きすぎると思うので適正規模にする必要があると思う。例えば山城南小学校を造るとか。 山城小学校の大規模の状況をどう解消していくのか、その方向性はあるのかということについて伺う。
教育部長	山城小学校の児童数の推計は、令和８年度から数年後に向けて減少傾向にある。こうしたことを踏まえて児童数の定数の推計等を行っており、児童数の増加に伴ってこれまで校舎の増築などを行いながら受け止めさせていただいているところである。 適正規模への取組については、通学区域の弾力化として、湯田小学校への入学ができる制度を設けたり、調整区域を設けて他の学校に行けるような制度を設けたりもしている。 今後においても、児童のより良い環境の確保に向けて、児童数の推計などの状況を踏まえる中で、より良い学校の現場の環境を検討しながら、適正規模への取組を慎重に検討していきたい。
意見	児童数が減ってくるのではないかとすることは、１０年以上も前からずっと予想されていたのだけれど、それに反して増え

質問	ている。 令和8年度から減るとのことだったが、はたして本当にそうなるのかというのは少し疑問がある。 いろいろ工夫されているということは分かったが、小学校の校庭も1児童あたりからすればそんなに小さくなってしまったわけで、ぜひ適正規模になるよう検討を進めていただきたいと要望する。 ・山城小学校への通学手段について 私は、今、小学校の児童と一緒に学校に行くようなこともあるが、山城地区は学校までが遠く、結構、この時期は暑い。子どもたちが可哀そうだと思って話を聞いてみると「学校にエアコンがあるから大丈夫だよ」と言う。この前、小学校1年生の女の子が、転倒してしまい、可哀そうだからランドセルを持ってあげたら凄く重かった。 そのランドセルを持って学校に行ってあげて帰ったが、「その道のりが長いな」、また、「ランドセルが重いな」と感じた。 子ども支援ということで、あまり遠いところであれば、スクールバスなんかを出してあげてもいいのではないかな。
教育部長	通学距離は、大規模校である山城小学校については、広範囲から子どもたちが来ていることは承知をしており、そういった中で、暑さだったり、通学途中の危険がないように通学路の安全確保について、道路管理者等と確認しながら取り組んでいる。通学の件についても、児童の安全を第一に考えていくので、よろしく願います。
樋口市長 (まとめ)	本市が誇る農業産地の山城地区で、農業センターもあるので最大限有効活用し、また、高収入が得られるようなバックアップをしていきたい。 また、自治会の取組については、先進的な取組をしていただいております。子どもも学ぶ点が多くあるので、いろいろお聞かせいただき、その取組を広報誌で他の地域に見ていただけるような取組をしたい。仮想通貨等、先進地の事例も研究しているが、市民のデジタルリテラシーの向上をもう少し力を入れていく必要があると感じるため、そういった

	ことを含め検討させていただければありがたい。 リニアが走る近未来に向けての交通対策についても、駅の起工式が終わり、また、静岡工区も着工し、１０年先という息の長い話であるが、長い工事期間に安全安心がなければ地元の皆様の暮らしやすさが向上しないので、山城地区、大里地区、大国地区、中道地区の皆様と連携を深め、また、ＪＲ東海にも中に入ってください、安全第一の取組をしていきたい。環状道路も東部区間道路が供用開始になるが、生活道路の整備も怠りなくしていきたいと思うので、よろしくお願い申し上げます。 そして、山城小学校について、ご提言、ご要望をいただいた。今、新しい小学校をつくるという計画はないが、校庭の拡張や少人数学級ということで校舎の増築もした。いろいろなことをお聞かせいただきながら、より良い環境づくりに努めてまいりたい。 学校の登下校中の安全についても、通学距離が長いということであるが、いろいろなことをお聞かせいただきながら改善を図り、安全確保を目指していくので、よろしくお願い申し上げます。
地区からの挨拶要旨	
山城地区自治会連合会会長	本日は、第七次甲府市総合計画について、樋口市長より説明をいただき誠にありがとうございました。 近年、開発が進む山城地区ではあるが、住民が暮らしやすいまちづくりに取り組む一方、地域の発展に伴い、交通渋滞、子どもたちの登下校の安全対策、農業振興等、様々な課題がおきている。意見交換では、これらの課題に対し、行政の考えを伺いながら、山城地区の思いを伝えられる良い機会であったと感じている。幸せ実感、希望ある未来を紡ぐ甲府市の実現のため、住民一丸となって邁進していきたいのでよろしくお願いします。 また、山城地区の皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき、本当にありがとうございました。大変大勢の方に来ていただき感謝している。 山城地区、甲府市をよりよいまちにするためには、地域の活動と行政の取組の相乗効果が発揮されることが重要と考えている。山城地区自治会連合会では今後も皆様方のご協力をいただきながら、様々な活動を通して明るく住みよい、安全安心なま

	ちづくりに取り組んでいきたいのでよろしくご協力をお願い申し上げます。
--	------------------------------------